

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

jc997 U.S. PTO  
09/963578  
09/27/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年10月 2日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-302666

出 願 人

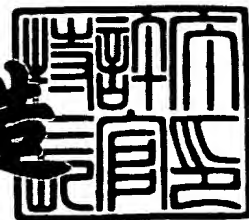
Applicant(s):

株式会社東芝

2001年 4月27日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3036011

【書類名】 特許願

【整理番号】 A000005842

【提出日】 平成12年10月 2日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 3/16

【発明の名称】 音楽再生装置及びオーディオプレーヤとヘッドフォン

【請求項の数】 19

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会社東芝青梅工場内

    【氏名】 綿貫 正法

【特許出願人】

    【識別番号】 000003078

    【氏名又は名称】 株式会社 東芝

【代理人】

    【識別番号】 100058479

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 鈴江 武彦

    【電話番号】 03-3502-3181

【選任した代理人】

    【識別番号】 100084618

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 村松 貞男

【選任した代理人】

    【識別番号】 100068814

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 坪井 淳

【選任した代理人】

    【識別番号】 100092196

【弁理士】

【氏名又は名称】 橋本 良郎

【選任した代理人】

【識別番号】 100091351

【弁理士】

【氏名又は名称】 河野 哲

【選任した代理人】

【識別番号】 100088683

【弁理士】

【氏名又は名称】 中村 誠

【選任した代理人】

【識別番号】 100070437

【弁理士】

【氏名又は名称】 河井 将次

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011567

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 音楽再生装置及びオーディオプレーヤとヘッドフォン

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 円形状のプレーヤ本体と、このプレーヤ本体の前面に設けられる表示パネルと、この表示パネルの外周に回転可能に設けられるプレーヤ操作スイッチと、上記プレーヤ本体の背面に設けられる無線通信用アンテナとを具備することを特徴とするオーディオプレーヤ。

【請求項 2】 円形状のプレーヤ本体と、このプレーヤ本体の前面に設けられる表示パネルと、この表示パネルの外周に回転可能に設けられるプレーヤ操作スイッチと、上記プレーヤ本体の背面に設けられる無線通信用アンテナと、上記プレーヤ本体の側面に設けられるカードスロットとを具備することを特徴とするオーディオプレーヤ。

【請求項 3】 円形状のヘッドフォン本体と、このヘッドフォン本体の一方の面に設けられるスピーカと、上記ヘッドフォン本体の他方の面に設けられる無線通信用アンテナと、上記ヘッドフォン本体の外側に設けられる耳かけとを具備することを特徴とするヘッドフォン。

【請求項 4】 円形状のヘッドフォン本体と、このヘッドフォン本体の一方の面に設けられるスピーカと、上記ヘッドフォン本体の他方の面に設けられる無線通信用アンテナと、このアンテナ外周に回転可能に設けられ、電源を ON/OFF するロータリスイッチと、上記ヘッドフォン本体の外側に設けられる耳かけとを具備することを特徴とするヘッドフォン。

【請求項 5】 オーディオプレーヤとヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、音楽データを生成し、誤り訂正符号を含むデジタルデータ転送の電波により順次ヘッドフォンへ送信する送信手段と、上記ヘッドフォンからの再生要求を検出する再生要求検出手段と、上記再生要求検出手段により検出された再生要求に基づき、要求されたデータを上記ヘッドフォンへ再送信する再送信手段とを備え、

上記ヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された電波を受信する

受信手段と、この受信手段により受信されたデータの誤りを検出して訂正するエラー検出訂正手段と、上記訂正された音楽データを格納するデータバッファと、このデータバッファに格納された音楽データを順次読み出してスピーカを駆動する手段と、上記エラー検出訂正手段によりデータの再送が必要と判断された場合に再送要求をオーディオプレーヤに送出する再送要求手段と、  
を具備することを特徴とする音楽再生装置。

【請求項6】 オーディオプレーヤと左右のヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、左右の音楽データを生成し、上記左右の音楽データを混在した状態でデジタルデータ転送の電波により順次ヘッドフォンへ送信する送信手段を備え、

上記左右のヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された電波を受信する受信手段と、この受信手段により受信された左右が混在した音楽データから左右どちらか必要なデータを抽出するデータ抽出手段と、このデータ抽出手段により抽出された左あるいは右の音楽データに基づいてスピーカを駆動する手段と、

を具備することを特徴とする音楽再生装置。

【請求項7】 オーディオプレーヤと左右のヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、左右の音楽データを生成し、上記左右の音楽データを分離した状態でデジタルデータ転送の電波により上記左右のヘッドフォンへ別々に送信する送信手段を備え、

上記左右のヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された左右2つの電波の一方を受信する受信手段と、この受信手段により受信された左あるいは右の音楽データに基づいてスピーカを駆動する手段と、

を具備することを特徴とする音楽再生装置。

【請求項8】 上記ヘッドフォンは、オーディオプレーヤの操作スイッチを備え、この操作スイッチのON/OFF状態をオーディオプレーヤに無線送信し、

上記オーディオプレーヤは、上記ヘッドフォンから送信されるスイッチ操作信号を受信してプレーヤ動作を制御することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 9】 上記ヘッドフォンは、音声を入力するマイクを備え、このマイクから入力された音声をデジタルデータに変換してオーディオプレーヤに無線送信し、

上記オーディオプレーヤは上記ヘッドフォンから送信される音声データを受信して音声認識及びコマンド解釈を行ない、そのコマンドに従ってプレーヤ動作を制御することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 10】 上記オーディオプレーヤは、複数のヘッドフォンとワイヤレス接続する無線通信手段を備えたことを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 11】 上記ヘッドフォンは、内蔵電池の残量を検出する電池残量検出手段を備え、この電池残量検出手段により検出した電池残量情報をオーディオプレーヤに送信し、電池残量が一定値を下回ると警告音をスピーカから発生させ、

上記オーディオプレーヤは、内蔵電池の残量を検出する電池残量検出手段を備え、この電池残量検出手段により検出した電池残量情報と上記ヘッドフォンから送られてくる電池残量情報を表示パネルに表示し、上記自己の電池残量が一定値を下回ると警告音又は警告メッセージを上記ヘッドフォンへ送信することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 12】 上記ヘッドフォンは、オーディオプレーヤから送信される電波の電界強度を測定する電界強度測定手段を備え、この電界強度測定手段により測定した電界強度から上記オーディオプレーヤとの距離を推定し、一定の距離を超えた時点で警告音をスピーカから出力することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 13】 上記ヘッドフォンは、オーディオプレーヤに対する受信データのエラー率を測定するエラー率測定手段を備え、このエラー率測定手段により測定したエラー率から上記オーディオプレーヤとの距離を推定し、一定の距離

を超えた時点で警告音をスピーカから出力することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 1 4】 上記ヘッドフォンは、オーディオプレーヤから送信される電波の電界強度を測定する電界強度測定手段と、この電界強度測定手段により測定した電界強度から上記オーディオプレーヤとの距離を推定する第 1 の推定手段と、上記オーディオプレーヤに対する受信データのエラー率を測定するエラー率測定手段と、このエラー率測定手段により測定したエラー率から上記オーディオプレーヤとの距離を推定する第 2 の推定手段と、上記第 1 の推定手段と第 2 の推定手段の何れかにより上記オーディオプレーヤとの距離が一定の距離を超えたと推定された時点で警告音をスピーカから出力することを特徴とする請求項 5、6 又は 7 記載の音楽再生装置。

【請求項 1 5】 音楽データを生成してデジタルデータ転送の電波によりヘッドフォンへ送信するオーディオプレーヤにおいて、

上記ヘッドフォン以外の電子機器と接続するインターフェイスと、このインターフェイスを介して上記電子機器とデータファイルを送受信する手段とを具備することを特徴とするオーディオプレーヤ。

【請求項 1 6】 オーディオプレーヤからデジタルデータ転送の電波により送信される音楽データを受信してスピーカを駆動するヘッドフォンにおいて、ヘッドフォンに格納される格納型マイクと、該マイクが引き出されたことを検出し、マイクに入力された音声をデジタルデータに変換して送信する無線通信手段とを備えたことを特徴とするヘッドフォン。

【請求項 1 7】 オーディオプレーヤからデジタルデータ転送の電波により送信される音楽データを受信してスピーカを駆動するヘッドフォンにおいて、ヘッドフォン本体に設けられるマイクと、このマイクに入力された音声をデジタルデータに変換して携帯電話に送信すると共に該携帯電話からの送信信号を受信する無線通信手段とを備えたことを特徴とするヘッドフォン。

【請求項 1 8】 上記無線通信手段は、携帯電話からの信号を受信した際に通話が可能な電話モードに自動的に切替える切替え手段を備えたことを特徴とする請求項 1 0 記載のヘッドフォン。

【請求項 19】 オーディオプレーヤからデジタルデータ転送の電波により送信される音楽データを受信してスピーカを駆動するヘッドフォンにおいて、ヘッドフォン本体に格納される格納型マイクと、該マイクが引き出されたことを検出し、マイクに入力された音声をデジタルデータに変換して携帯電話に送信すると共に携帯電話からの送信信号を受信する無線通信手段とを備えたことを特徴とするヘッドフォン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯型オーディオプレーヤとヘッドフォンをデジタル転送の電波を用いて接続する音楽再生装置及びオーディオプレーヤとヘッドフォンに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、携帯型オーディオプレーヤにおいては、オーディオプレーヤとヘッドフォンがコードで接続されている。このためコードが使用者の邪魔になり、例えば音楽を聴きながらジョギングするなど、スポーツの際に使用し難い。また、オーディオプレーヤを他の機器と接続するには、接続ケーブルが必要であると共に、音質の劣化が生じる。また、ヘッドフォンを他の目的で使用したい場合には、コードを接続し直さないと使用できない。更に、オーディオプレーヤに複数のヘッドフォンを接続することが困難である。すなわち、オーディオプレーヤに複数のヘッドフォンを接続するには、オーディオプレーヤ側にヘッドフォンを接続するジャックが必要となり、構造上の制限が生じる。

【0003】

このため最近の携帯型オーディオプレーヤでは、音声情報をアナログでFM変調や赤外線を使用してヘッドフォンへワイヤレスで送るようにしたワイヤレス型のものが考えられている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上記従来のワイヤレス携帯型オーディオプレーヤでは、アナログによ



り音声情報を送信しているので、音質が劣化するという問題がある。また、赤外線を用いたものでは、指向性が強いので複数のヘッドフォンを接続することができず、FM変調を用いたものでも、未だ複数のヘッドフォンを接続する構成とはなっていない。更に、従来のワイヤレス型のものでは、オーディオプレーヤやヘッドフォンを他の機器に切換え接続することができない。

#### 【 0 0 0 5 】

本発明は上記の課題を解決するためになされたもので、音質の劣化がないと共に複数のヘッドフォンを用いて複数の人が同じ音楽を聴くことができ、かつ、オーディオプレーヤ及びヘッドフォンをそれぞれ他の目的のために簡単に切換えることができる音楽再生装置及びオーディオプレーヤとヘッドフォンを提供することを目的とする。

#### 【 0 0 0 6 】

##### 【課題を解決するための手段】

第1の発明は、オーディオプレーヤとヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、音楽データを生成し、誤り訂正符号を含むデジタルデータ転送の電波により順次ヘッドフォンへ送信する送信手段と、上記ヘッドフォンからの再生要求を検出する再生要求検出手段と、上記再生要求検出手段により検出された再生要求に基づき、要求されたデータを上記ヘッドフォンへ再送信する再送信手段とを備え、

上記ヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された電波を受信する受信手段と、この受信手段により受信されたデータの誤りを検出して訂正するエラー検出訂正手段と、上記訂正された音楽データを格納するデータバッファと、このデータバッファに格納された音楽データを順次読み出してスピーカを駆動する手段と、上記エラー検出訂正手段によりデータの再送が必要と判断された場合に再送要求をオーディオプレーヤに送出する再送要求手段と、

を具備することを特徴とする。

上記のようにオーディオプレーヤからデジタルの音楽データをヘッドフォンに送信することにより、音質が劣化することなく、高品質の状態に保つことができ

る。また、ヘッドフォンにエラー検出訂正回路を設けてエラー訂正を行なうと共に、エラー訂正ができない場合や、電波が途切れてデータの一部を受信できなかった場合には、データを再送信することにより、音楽データを途切れや劣化を確実に防止することができる。更に、オーディオプレーヤからデジタルの音楽データを無線で送信しているので、ヘッドフォンを複数用いて、複数の人が同じ音楽を聴くことができる。

## 【 0 0 0 7 】

第2の発明は、オーディオプレーヤと左右のヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、左右の音楽データを生成し、上記左右の音楽データを混在した状態でデジタルデータ転送の電波により順次ヘッドフォンへ送信する送信手段を備え、

上記左右のヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された電波を受信する受信手段と、この受信手段により受信された左右が混在した音楽データから左右どちらか必要なデータを抽出するデータ抽出手段と、このデータ抽出手段により抽出された左あるいは右の音楽データに基づいてスピーカを駆動する手段と、を具備することを特徴とする。

上記の構成によれば、オーディオプレーヤから左右の音楽データを混在した状態で左右のヘッドフォンに送信されるが、ヘッドフォン側でL（左側）とR（右側）の信号に分離してステレオの音楽を聴くことができる。

## 【 0 0 0 8 】

第3の発明は、オーディオプレーヤと左右のヘッドフォンをワイヤレスで接続する音楽再生装置において、

上記オーディオプレーヤは、左右の音楽データを生成し、上記左右の音楽データを分離した状態でデジタルデータ転送の電波により上記左右のヘッドフォンへ別々に送信する送信手段を備え、

上記左右のヘッドフォンは、上記オーディオプレーヤから送信された左右2つの電波の一方を受信する受信手段と、この受信手段により受信された左あるいは右の音楽データに基づいてスピーカを駆動する手段と、を具備することを特徴と

する。

上記の構成によれば、オーディオプレーヤ側でLとRの信号を分離し、それぞれ別個に変調して送信しているのので、左右のヘッドフォンは、オーディオプレーヤから送られてくる予め分離されたLとRの信号を受信してステレオの音楽を聴くことができる。

#### 【 0 0 0 9 】

第4の発明は、音楽データを生成してデジタルデータ転送の電波によりヘッドフォンへ送信するオーディオプレーヤにおいて、

上記ヘッドフォン以外の電子機器と接続するインターフェイスと、このインターフェイスを介して上記電子機器とデータファイルを送受信する手段とを具備することを特徴とする。

上記のようにオーディオプレーヤにヘッドフォン以外の電子機器と接続するインターフェイスを備えることにより、オーディオプレーヤは、音楽データの送受信だけでなく、他の目的を持つ電子機器に簡単に切換え接続することができる。

#### 【 0 0 1 0 】

第5の発明は、オーディオプレーヤからデジタルデータ転送の電波により送信される音楽データを受信してスピーカを駆動するヘッドフォンにおいて、ヘッドフォンに格納される格納型マイクと、該マイクが引き出されたことを検出し、マイクに入力された音声をデジタルデータに変換して送信する無線通信手段とを備えたことを特徴とする。

上記の構成によれば、ヘッドフォン側からオーディオプレーヤに使用者の音声データを送信することができる。このため例えばヘッドフォン側からオーディオプレーヤを音声により操作することが可能となる。

#### 【 0 0 1 1 】

##### 【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施形態を説明する。

#### 【 0 0 1 2 】

##### （第1実施形態）

図1は本発明の第1実施形態に係るオーディオプレーヤ10の外観構成図で、

(a) は正面図、(b) は側面図、(c) は背面図、(d) は底面図である。また、図 2 はヘッドフォン (右側) 2 0 の外観構成図で、(a) は左側面図、(b) は正面図、(c) は右側面図である。

#### 【0 0 1 3】

図 1 に示すオーディオプレーヤ 1 0 は、円状のケース本体 1 1 に対して、前面側に円状に形成された例えば L C D の表示パネル 1 2 が設けられると共に、その外周にリング状のオーディオ操作スイッチ 1 3 が可能に設けられる。このオーディオ操作スイッチ 1 3 は、ロータリスイッチにより構成され、回転することによって例えば F F (早送り)、R E Q (巻戻し)、P L A Y (再生)、S T O P (停止) の操作を行なうことができる。また、ケース本体 1 1 の外側には、音量調整用のスイッチ 1 5 a、1 5 b が設けられる。スイッチ 1 5 a は音量を増大させるための押しボタン式スイッチ、スイッチ 1 5 b は音量を減少させるための押しボタン式スイッチである。

#### 【0 0 1 4】

また、ケース本体 1 1 の背面側には、電波送受信用の無線通信アンテナ 1 4 が回転可能に設けられる。このアンテナ 1 4 は、電波の発信、受信を O N / O F F するロータリスイッチを備えている。このロータリスイッチは、オーディオプレーヤの電源スイッチを兼用することができる。

#### 【0 0 1 5】

また、上記ケース本体 1 1 の下側には、図 1 (d) に示すようにカードスロット 1 6 が設けられる。このカードスロット 1 6 には、例えばメモリカード等が装着される。上記メモリカードとしては、例えば S D (Secure digital) カードが使用される。

#### 【0 0 1 6】

上記オーディオプレーヤ 1 0 は、メモリカードに記憶されている音楽を再生し、その再生したデジタルの音楽データを無線通信によりヘッドフォン 2 0 へ送信する。上記無線通信には、例えば Bluetooth が用いられる。Bluetooth は、短距離の無線通信規格であり、2. 4 G H z 帯の I S M (Industry Science Medical) バンドを用いて通常 1 0 m 以内の無線通信を実現するものである。Bluetooth

h では、スペクトラム拡散技術として周波数ホッピング方式を用いており、最大で 8 台までの機器を時分割多重方式によって接続することができる。

#### 【 0 0 1 7 】

また、図 2 に示すヘッドフォン（右側）20 は、円状のケース本体 21 の一方の面にアンテナ 23 が設けられると共に、その外周にリング状の ON/OFF スイッチ 22 が設けられる。この ON/OFF スイッチ 22 は、ロータリスイッチにより構成され、回転操作することによって電源を ON/OFF する。また、ケース本体 21 の他方の面には、スピーカ 24 が設けられる。更に上記ケース本体 21 の外側には、耳かけ 25 が設けられる。この耳かけ 25 あるいはケース本体 21 内に電池が内蔵される。上記ヘッドフォン 20 は、オーディオプレーヤ 10 と無線通信により接続され、オーディオプレーヤ 10 から送られてくるデジタルの音楽データを受信し、アナログ信号に変換してスピーカ 24 を駆動する。

なお、図 2 では、右側のヘッドフォン 20 について示したが、左側のヘッドフォンにおいても同様に構成される。

#### 【 0 0 1 8 】

図 3 は、ヘッドフォン 20 にマイク 28 を設けた場合の構成例を示し、スピーカ 24 側から見た図である。また、図 3（a）はマイク 28 を格納している状態、同図（b）はマイク 28 を引き出した状態を示している。

#### 【 0 0 1 9 】

上記ヘッドフォン 20 は、スピーカ 24 の外周にマイク部 27 を設けている。このマイク部 27 は、半円リング状のマイク収納アームの一端部を回転可能に保持し、その先端部にマイク 28 を格納している。また、スピーカ 24 の外周には、マイク部 27 の対向する位置にマイク部 27 と同様の半円リング状の部材を配置して美観を保っている。更に、上記ヘッドフォン 20 は、マイク部 27 の位置を検出するスイッチを備え、マイク 28 が引き出されると、その状態を上記スイッチにより検出してイヤホンマイクとして使用できるようになっている。通常はマイク 28 を図 3（a）に示すように格納した状態で使用する。

#### 【 0 0 2 0 】

次に、上記オーディオプレーヤ 10 及びヘッドフォン 20 の電子回路について

図 4 を参照して説明する。オーディオプレーヤ 1 0 は、メモリカードから読み出される音楽データを記憶する音楽ファイル 3 1、この音楽ファイル 3 1 からデジタル送信データを生成するデジタル送信データ生成部 3 2、上記デジタルデータを変調してヘッドフォン 2 0 に無線送信するデジタルデータ変調装置 3 3 を備えている。更に、オーディオプレーヤ 1 0 は、ヘッドフォン 2 0 から送られてくる再送要求コマンドを受信する受信装置 3 4、この受信装置 3 4 で受信した再送要求コマンドを解釈してデジタル送信データ生成部 3 2 に入力する再送要求解釈部 3 5 を備えている。

#### 【 0 0 2 1 】

一方、ヘッドフォン 2 0 は、オーディオプレーヤ 1 0 から送られてくるデータを受信する受信装置 4 1、受信した信号のエラーを検出して訂正するエラー検出訂正回路 4 2、上記エラー訂正されたデータを格納するデータバッファ 4 3、このデータバッファ 4 3 に格納されたデジタルデータを順次アナログ信号に変換して増幅し、スピーカ 2 4 を駆動する D/A 変換アンプ回路 4 4 を備えている。更に、ヘッドフォン 2 0 は、エラー検出訂正回路 4 2 でエラーを訂正できない場合や、電波が途切れてデータの一部を受信できなかった場合に、再送要求を発生する再送要求発生部 4 5、発生した再送要求を変調してオーディオプレーヤ 1 0 へ送信するデジタルデータ変調装置 4 6 を備えている。

#### 【 0 0 2 2 】

上記の構成において、オーディオプレーヤ 1 0 は、デジタル送信データ生成部 3 2 にて音楽ファイル 3 1 からデジタル送信データを生成し、デジタルデータ変調装置 3 3 により変調してヘッドフォン 2 0 に無線送信する。上記オーディオプレーヤ 1 0 から送信されるデータには、誤り訂正符号が付加されている。

#### 【 0 0 2 3 】

ヘッドフォン 2 0 では、オーディオプレーヤ 1 0 から送られてくる音楽データを受信装置 4 1 で受信し、エラー検出訂正回路 4 2 でエラー検出及びエラー訂正を行なってデータバッファ 4 3 に格納する。このデータバッファ 4 3 に格納されたデータを D/A 変換アンプ回路 4 4 に順次読み出してアナログ信号に変換すると共に増幅し、スピーカ 2 4 を駆動する。

## 【0024】

また、上記エラー検出訂正回路42でエラーを訂正できない場合や、電波が途切れてデータの一部を受信できなかった場合には、エラー検出訂正回路42から再送要求発生部45に再送要求を発生するための指令が送られ、再送要求発生部45から再送要求コマンドが出力される。この再送要求コマンドは、デジタルデータ変調装置46で変調されてオーディオプレーヤ10へ送られる。

## 【0025】

オーディオプレーヤ10は、ヘッドフォン20から送られてくる再送要求コマンドを受信装置34で受信し、再送要求解釈部35で解釈してデジタル送信データ生成部32にデータの再送を指示する。デジタル送信データ生成部32は、再送要求解釈部35からの指示に従って要求された部分のデータを再度送信する。

## 【0026】

上記第1実施形態によれば、オーディオプレーヤ10とヘッドフォン20とを無線通信で接続しているので接続コードが不要であり、使用者の邪魔になることはない。このため音楽を聴きながらジョギングすることが可能となる。また、オーディオプレーヤ10及びヘッドフォン20を収納する場合においても、コードが邪魔になるということもない。

## 【0027】

また、オーディオプレーヤ10からデジタルの音楽データをヘッドフォン20に送信しているので、音質が劣化することなく、高品質の状態に保つことができる。更に、ヘッドフォン20にエラー検出訂正回路42を設けてエラー検出及びエラー訂正を行なうと共に、エラー検出訂正回路42でエラーを訂正できない場合や、電波が途切れてデータの一部を受信できなかった場合には、再送要求を発生してオーディオプレーヤ10から要求された部分のデータを再送信しているので、音楽データを途切れや劣化することなく転送することができる。すなわち、エラー検出訂正回路42で訂正されたデータ、あるいは再送信されたデータは、データバッファ43に一旦格納され、その後、順次D/A変換アンプ回路44に読み出されるので、データの再送信を行なった場合でも、途切れることなくスピーカ24に出力することができる。

## 【 0 0 2 8 】

また、オーディオプレーヤ 1 0 からデジタルの音楽データを無線で送信しているので、ヘッドフォン 2 0 を複数用いて、複数の人が同じ音楽を聴くことができる。例えば無線通信方式として Bluetooth を用いた場合には、8 人の人が同じ音楽を聴くことができる。

また、オーディオプレーヤ 1 0 とヘッドフォン 2 0 との間をワイヤレスとすることにより、オーディオプレーヤ 1 0 及びヘッドフォン 2 0 の構造に自由度が生まれ、様々な形状にすることが可能となる。

## 【 0 0 2 9 】

## (第 2 実施形態)

図 5 は、本発明の第 2 実施形態に係るオーディオプレーヤ 1 0 とヘッドフォン 2 0 の回路構成を示したものである。

オーディオプレーヤ 1 0 は、デジタル送信データ生成部 3 2 で L (左側) 及び R (右側) が混合したステレオの音楽データを生成し、デジタルデータ変調装置 3 3 に出力する。デジタルデータ変調装置 3 3 は、L 及び R の混合した音楽データを変調して L 側ヘッドフォン 2 0 a 及び R 側ヘッドフォン 2 0 b に送信する。

## 【 0 0 3 0 】

L 側ヘッドフォン 2 0 a は、受信装置 5 1 a、L 側データ抽出部 5 2 a、D/A 変換アンプ回路 5 3 a 及び L 側スピーカ 2 4 a からなり、受信装置 5 1 a で受信した L 及び R の混合した音楽データを L 側データ抽出部 5 2 a に入力して L 側データのみを抽出する。そして、この L 側のデータを D/A 変換アンプ回路 5 3 a でアナログ信号に変換して増幅し、L 側スピーカ 2 4 a を駆動する。

## 【 0 0 3 1 】

一方、R 側ヘッドフォン 2 0 b は、受信装置 5 1 b、R 側データ抽出部 5 2 b、D/A 変換アンプ回路 5 3 b 及び R 側スピーカ 2 4 b からなり、受信装置 5 1 b で受信した L 及び R の混合した音楽データを R 側データ抽出部 5 2 b に入力して R 側データのみを抽出する。そして、この R 側データを D/A 変換アンプ回路 5 3 b でアナログ信号に変換して増幅し、R 側スピーカ 2 4 b を駆動する。

## 【 0 0 3 2 】



上記L側データ抽出部52a及びR側データ抽出部52bは、受信データ中に含まれるコードによってLとRの信号を抽出するか、あるいは時分割方式によってLとRの信号を抽出する。

上記の構成とすることにより、ヘッドフォン20a、20b側でLとRの信号を確実に分離でき、ステレオの音楽を聴くことができる。

#### 【0033】

##### (第3実施形態)

図6は、本発明の第3実施形態に係るオーディオプレーヤ10とヘッドフォン20の回路構成を示したものである。

この第3実施形態では、オーディオプレーヤ10側において、デジタル送信データ生成部32の次段にL-R分離部36を設け、デジタル送信データ生成部32から出力されるデータからLとRの信号を分離している。そして、L-R分離部36で分離されたLの信号をデジタルデータ変調装置33aに入力し、Rの信号をデジタルデータ変調装置33bに入力する。上記デジタルデータ変調装置33a、33bは、L-R分離部36で分離された信号をそれぞれ変調してL側ヘッドフォン20a及びR側ヘッドフォン20bに送信する。この場合、デジタルデータ変調装置33a、33bは、例えば周波数分割方式を用いてそれぞれの信号を送信する。

#### 【0034】

一方、L側ヘッドフォン20aは、受信装置51a、D/A変換アンプ回路53a及びL側スピーカ24aによって構成される。受信装置51aは、デジタルデータ変調装置33aから送信されるL側の信号を選択して受信し、D/A変換アンプ回路53aに入力する。D/A変換アンプ回路53aは、上記受信装置51aで受信したL側の信号をアナログ信号に変換し増幅してL側スピーカ24aを駆動する。

#### 【0035】

また、R側ヘッドフォン20bは、受信装置51b、D/A変換アンプ回路53b及びR側スピーカ24bによって構成される。受信装置51bは、デジタルデータ変調装置33bから送信されるR側の信号を選択して受信し、D/A変換

アンプ回路 5 3 b に入力する。D/A 変換アンプ回路 5 3 b は、上記受信装置 5 1 b で受信した R 側の信号をアナログ信号に変換し増幅して R 側スピーカ 2 4 b を駆動する。

#### 【 0 0 3 6 】

上記第 3 実施形態では、オーディオプレーヤ 1 0 側で L と R の信号を分離し、それぞれデジタルデータ変調装置 3 3 a、3 3 b で別個に変調して送信している。従って、ヘッドフォン 2 0 a、2 0 b 側では、オーディオプレーヤ 1 0 から送られてくる予め分離された L と R の信号を受信してステレオの音楽を聴くことができる。

#### 【 0 0 3 7 】

##### (第 4 実施形態)

次に、本発明の第 4 実施例を図 7 を参照して説明する。

この第 4 実施形態は、図 3 に示したようにヘッドフォン 2 0 にマイク 2 8 を格納した場合の回路構成について示したものである。図 7 に示すようにヘッドフォンに設けたマイク部 2 7 は、マイク 2 8、A/D 変換装置 6 1 及びデジタルデータ変調装置 6 2 からなり、マイク位置検出部 6 3 からの検出信号によってマイク部 2 7 の電源を ON/OFF するように構成したものである。

#### 【 0 0 3 8 】

上記マイク位置検出部 6 3 は、図 3 (a) に示したようにマイク 2 8 がヘッドフォン 2 0 に格納されている状態では電源 OFF の信号を出力し、図 3 (b) に示すようにマイク 2 8 を引き出した状態では電源 ON の信号を出力する。従って、ヘッドフォン 2 0 からマイク 2 8 を引き出すと、マイク位置検出部 6 3 から電源 ON の信号が出力され、マイク部 2 7 が動作状態となる。この状態でマイク 2 8 から音声が入力されると、その音声信号が A/D 変換装置 6 1 でアナログからデジタル信号に変換され、デジタルデータ変調装置 6 2 で変調されてオーディオプレーヤ 1 0 へ送信される。

上記のようにしてヘッドフォン 2 0 側からオーディオプレーヤ 1 0 に使用者の音声データを送信することができる。

#### 【 0 0 3 9 】

上記図 7 では、デジタルデータ変調装置 6 2 は、オーディオプレーヤ 1 0 に音声データを送信する場合について説明したが、オーディオプレーヤ 1 0 以外の装置、オーディオプレーヤ 1 0 と同じ電波の I / F を持つ装置、例えば携帯電話 / PHS、パソコン（パーソナルコンピュータ）、テレビなどとも接続可能である。従って、ヘッドフォン 2 0 を以下に示すような方法で使用することもできる。

#### 【 0 0 4 0 】

例えばヘッドフォン 2 0 をオーディオプレーヤ 1 0 に接続して使用しているときに、携帯電話 / PHS / 家の電話（以下、携帯電話という）に着信があった場合、携帯電話は着信中であることをオーディオプレーヤ 1 0 とヘッドフォン 2 0 へ電波で送信する。オーディオプレーヤ 1 0 は、再生を一時停止または音量を小さくし、ヘッドフォン 2 0 は電話の着信を示す音をスピーカ 2 4 から出力する。このとき使用者は、ヘッドフォン 2 0 に格納されたマイク 2 8 を引き出すことで、ヘッドフォン 2 0 は携帯電話のイヤホンマイクとしての動作を開始する。携帯電話は、ヘッドフォン 2 0 がイヤホンマイクとして動作を開始したことを検知すると、着信から通話状態に移行する。オーディオプレーヤ 1 0 は、ヘッドフォン 2 0 がイヤホンマイクとして動作を開始したことを検知すると、再生を一時停止する。そして、通話を終了した後、ヘッドフォン 2 0 のマイク 2 8 を格納すると、ヘッドフォン 2 0 は通常のヘッドフォンとしての動作を再開する。携帯電話は、ヘッドフォンとしての動作を再開したことを検知すると、通話を切断する。また、オーディオプレーヤ 1 0 は、ヘッドフォンとしての動作を再開したことを検知すると、一時停止していた音楽再生を再開する。

#### 【 0 0 4 1 】

上記のようにしてヘッドフォン 2 0 のマイク 2 8 により、携帯電話に対する通話処理を行なうことができる。

#### 【 0 0 4 2 】

また、その他、例えば携帯電話が待ち受け中に、ヘッドフォン 2 0 がイヤホンマイクとして動作を開始したことを検知すると、ヘッドフォン 2 0 から送られるマイク 2 8 の音声データを携帯電話が音声認識し、その相手にダイヤルするという処理も実行することが可能である。

## 【 0 0 4 3 】

## (第 5 実施形態)

次に、本発明の第 5 実施例を図 8 を参照して説明する。

この第 5 実施形態は、ヘッドフォン 2 0 をオーディオプレーヤ 1 0 のリモコン（リモートコントローラ）として動作させる場合の回路構成について示したものである。

図 8 に示すようにヘッドフォン 2 0 には、オーディオプレーヤ 1 0 を操作する操作スイッチ部 7 0 を設ける。この操作スイッチ部 7 0 は、オーディオプレーヤ 1 0 を操作するための例えば F F （早送り）、R E Q （巻戻し）、P L A Y （再生）、S T O P （停止）、音量調整等の操作スイッチ 7 1、この操作スイッチ 7 1 の状態を検出するスイッチ状態検出部 7 2、このスイッチ状態検出部 7 2 により検出されたスイッチに対するコマンドを変調して送出するデジタルデータ変調装置 7 3 を備えている。

## 【 0 0 4 4 】

一方、オーディオプレーヤ 1 0 は、ヘッドフォン 2 0 の操作スイッチ部 7 0 から送信される電波を制御部 8 0 により受信し、その受信信号に対応した制御動作を実行する。上記制御部 8 0 は、上記操作スイッチ部 7 0 のデジタルデータ変調装置 7 3 から送信される電波を受信する受信装置 8 1、この受信装置 8 1 により受信した信号、すなわち操作スイッチ 7 1 に対応したコマンドを解釈するコマンド解釈部 8 2、解釈したコマンドに従ってプレーヤ動作を制御するプレーヤ動作制御部 8 3 を備えている。このプレーヤ動作制御部 8 3 は、通常はプレーヤ側操作スイッチ 8 4 の操作に応じてプレーヤ動作を制御する。

## 【 0 0 4 5 】

上記の構成において、ヘッドフォン 2 0 側において、例えば P L A Y （再生）、S T O P （停止）等の操作スイッチ 7 1 を操作すると、そのスイッチ操作がスイッチ状態検出部 7 2 により検出され、操作スイッチに対応したコマンドがデジタルデータ変調装置 7 3 へ送られる。デジタルデータ変調装置 7 3 は、スイッチ状態検出部 7 2 から出力されるコマンドを変調してオーディオプレーヤ 1 0 側へ送信する。オーディオプレーヤ 1 0 は、デジタルデータ変調装置 7 3 から送信さ

れた電波を受信装置 8 1 で受信し、コマンド解釈部 8 2 でコマンドの内容を解釈してプレーヤ動作制御部 8 3 に入力する。プレーヤ動作制御部 8 3 は、コマンド解釈部 8 2 で解釈されたコマンドに従って P L A Y（再生）、S T O P（停止）等のプレーヤ動作を制御する。

上記のようにヘッドフォン 2 0 に操作スイッチ部 7 0 を設けることにより、ヘッドフォン 2 0 をオーディオプレーヤ 1 0 のリモコンとして動作させることができる。

#### 【 0 0 4 6 】

##### （第 6 実施形態）

次に、本発明の第 6 実施例を図 9 を参照して説明する。

この第 6 実施形態は、ヘッドフォン 2 0 のマイク 2 8 と音声認識技術を使用してヘッドフォン 2 0 をオーディオプレーヤ 1 0 のリモコンとして動作させる場合の回路構成について示したものである。

図 9 に示すようにヘッドフォン 2 0 には、図 7 に示したマイク部 2 7 を設ける。このマイク部 2 7 は、マイク 2 8、A/D 変換装置 6 1 及びデジタルデータ変調装置 6 2 を備えている。

#### 【 0 0 4 7 】

一方、オーディオプレーヤ 1 0 は、第 5 実施形態の制御部 8 0 と同様の制御部 8 0 A を備えている。この制御部 8 0 A は、制御部 8 0 におけるコマンド解釈部 8 2 の代わりに音声コマンド解釈部 8 5 を設けたものである。

#### 【 0 0 4 8 】

上記の構成において、ヘッドフォン 2 0 をリモコンとして動作させる場合には、ヘッドフォン 2 0 からマイク 2 8 を引き出した後、オーディオプレーヤ 1 0 へ例えば「再生」、「次の曲」など予め定められた操作命令を発声する。マイク 2 8 に入力された音声データは、A/D 変換装置 6 1 でデジタルデータに変換され、デジタルデータ変調装置 6 2 により変調されたオーディオプレーヤ 1 0 の制御部 8 0 A へ送信される。この制御部 8 0 A は、ヘッドフォン 2 0 から送られてくる音声データを受信装置 8 1 で受信し、音声コマンド解釈部 8 5 で解釈してプレーヤ動作制御部 8 3 に伝える。プレーヤ動作制御部 8 3 は、音声コマンド解釈部

85で解釈された内容に従ってプレーヤ動作を制御する。

【0049】

上記のようにヘッドフォン20にマイク部27を設けると共に、オーディオプレーヤ10の制御部80に音声コマンド解釈部85を設けることにより、ヘッドフォン20のマイク28から音声指示を与えてオーディオプレーヤ10を動作させることができる。

【0050】

(第7実施形態)

次に、本発明の第7実施例を図10を参照して説明する。

この第7実施形態は、オーディオプレーヤ10とヘッドフォン20のL（左側）とR（右側）がそれぞれ持つ電池残量の情報をやり取りし、電池切れの警告音や警告メッセージを発したり、オーディオプレーヤ10の表示パネル12に電池残量を表示させる場合の回路構成について示したものである。

【0051】

図10に示すようにオーディオプレーヤ10には、電池91の残量を検出する電池残量検出部92を設ける。この電池残量検出部92で検出した電池残量の情報は、表示装置制御部93に送られて表示パネル12に表示される。また、上記電池残量検出部92は、電池91の残量がある一定の値を下回った場合に、その状態を検出して警告音発生指令を警告音発生部94に出力する。警告音発生部94は、電池残量検出部92からの指令に従って警告音または警告メッセージを生成し、デジタルデータ変調装置33により変調してL（左側）とR（右側）のヘッドフォン20へ送信する。

【0052】

ヘッドフォン20は、オーディオプレーヤ10から送信された警告音または警告メッセージを受信装置51で受信し、D/A変換アンプ回路53によりアナログ信号に変換してスピーカ24を駆動する。また、ヘッドフォン20は、内蔵した電池55の残量を電池残量検出部56で検出し、電池残量がある一定の値を下回った場合に警告音発生指令を警告音発生部57に出力する。警告音発生部57は、電池残量検出部56からの指令に従って警告音生成し、D/A変換アンプ回

路 5 3 を介してスピーカ 2 4 から出力する。

【 0 0 5 3 】

また、上記電池残量検出部 5 6 で検出された電池 5 5 の残量情報は、デジタルデータ変調装置 4 6 により変調されてオーディオプレーヤ 1 0 へ送信される。オーディオプレーヤ 1 0 は、ヘッドフォン 2 0 から送られてくる電池残量情報を受信装置 3 4 で受信し、表示装置制御部 9 3 に出力して表示パネル 1 2 に表示する。

【 0 0 5 4 】

上記の構成とすることにより、オーディオプレーヤ 1 0 とヘッドフォン 2 0 の L（左側）と R（右側）がそれぞれ持つ電池残量の情報をやり取りし、電池切れの警告音や警告メッセージを発したり、オーディオプレーヤ 1 0 の表示パネル 1 2 に電池残量を表示させることができる。

【 0 0 5 5 】

（第 8 実施形態）

次に、本発明の第 8 実施例を図 1 1 を参照して説明する。

この第 8 実施形態は、ヘッドフォン 2 0 がオーディオプレーヤ 1 0 との距離を電波を使用して概略測定し、ある一定以上の距離を超えた場合に警告音をスピーカ 2 4 から出力する場合の回路構成について示したものである。

【 0 0 5 6 】

図 1 1 に示すようにヘッドフォン 2 0 は、電界強度測定部 5 8 及びエラー率測定部 5 9 を備えており、オーディオプレーヤ 1 0 の送信電波を受信装置 5 1 で受信して上記電界強度測定部 5 8 及びエラー率測定部 5 9 に入力する。電界強度測定部 5 8 は、受信装置 5 1 における受信信号のレベルから電界強度を測定し、その電界強度からオーディオプレーヤ 1 0 との距離を推定し、一定の距離を超えた場合に警告音発生指令を警告音発生部 5 7 に出力する。

【 0 0 5 7 】

また、エラー率測定部 5 9 は、オーディオプレーヤ 1 0 からの送信情報に含まれているエラー検出符号に基づいて受信情報のエラー率を測定し、その結果からオーディオプレーヤ 1 0 との距離を推定し、一定の距離を超えた場合に警告音発

生指令を警告音発生部 5 7 に出力する。

【 0 0 5 8 】

警告音発生部 5 7 は、上記電界強度測定部 5 8 あるいはエラー率測定部 5 9 から警告音発生指令が与えられた場合に警告音を生成し、D/A変換アンプ回路 5 3 を介してスピーカ 2 4 から出力する。

【 0 0 5 9 】

上記のようにヘッドフォン 2 0 に電界強度測定部 5 8、エラー率測定部 5 9 を設けてオーディオプレーヤ 1 0 との距離を測定することにより、オーディオプレーヤ 1 0 との距離がある一定以上超えた場合に警告音をスピーカ 2 4 から出力することができる。従って、例えばオーディオプレーヤ 1 0 をある場所においたまま他に移動しようとした場合に警告音が鳴り、この結果、オーディオプレーヤ 1 0 の置き忘れを防止することができる。また、同様にオーディオプレーヤ 1 0 の盗難防止にも役立つものである。

【 0 0 6 0 】

上記各実施形態では、オーディオプレーヤ 1 0 をヘッドフォン 2 0 に接続する場合について示したが、ヘッドフォン 2 0 だけでなく、電波を利用して他の機器とも接続することができる。例えばオーディオプレーヤ 1 0 と同じ電波の I/F を持つ他のオーディオプレーヤ、パソコンと接続し、お互いが持つ音楽ファイルを送受信することができる。また、オーディオプレーヤ 1 0 を同じ電波の I/F を持つ携帯電話と接続し、この携帯電話を経由してインターネット上の音楽ファイルをダウンロードすることも可能である。

【 0 0 6 1 】

【発明の効果】

以上詳記したように本発明によれば、オーディオプレーヤからデジタルの音楽データをヘッドフォンに送信しているので、音質が劣化することではなく、高品質の状態に保つことができる。また、ヘッドフォンにエラー検出訂正回路を設けてエラー訂正を行なうと共に、エラー訂正ができない場合や、電波が途切れてデータの一部を受信できなかった場合には、データを再送信しているので、音楽データを途切れや劣化を確実に防止することができる。更に、オーディオプレーヤか



らデジタルの音楽データを無線で送信しているので、ヘッドフォンを複数用いて、複数の人が同じ音楽を聴くことができる。また、オーディオプレーヤ及びヘッドフォンは、それぞれ送受信装置を備えているので、音楽データの送受信だけでなく、他の目的を持つ電子機器に簡単に切換えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 実施形態に係るオーディオプレーヤの外観構成を示す図。

【図 2】

同実施形態におけるヘッドフォンの外観構成を示す図。

【図 3】

ヘッドフォンにマイクを格納した場合の外観構成を示す図。

【図 4】

本発明の第 1 実施形態に係るオーディオプレーヤ及びヘッドフォンの回路構成を示すブロック図。

【図 5】

本発明の第 2 実施形態に係るオーディオプレーヤ及びヘッドフォンの回路構成を示すブロック図。

【図 6】

本発明の第 3 実施形態に係るオーディオプレーヤ及びヘッドフォンの回路構成を示すブロック図。

【図 7】

本発明の第 4 実施形態に係るヘッドフォンに設けたマイク部の回路構成を示すブロック図。

【図 8】

本発明の第 5 実施形態に係るヘッドフォンの操作スイッチ部及びオーディオプレーヤの制御部の回路構成を示すブロック図。

【図 9】

本発明の第 6 実施形態に係るヘッドフォンのマイク部及びオーディオプレーヤの制御部の回路構成を示すブロック図。

【図 1 0】

本発明の第 7 実施形態に係るオーディオプレーヤ及びヘッドフォンの回路構成を示すブロック図。

【図 1 1】

本発明の第 8 実施形態に係るヘッドフォンの回路構成を示すブロック図。

【符号の説明】

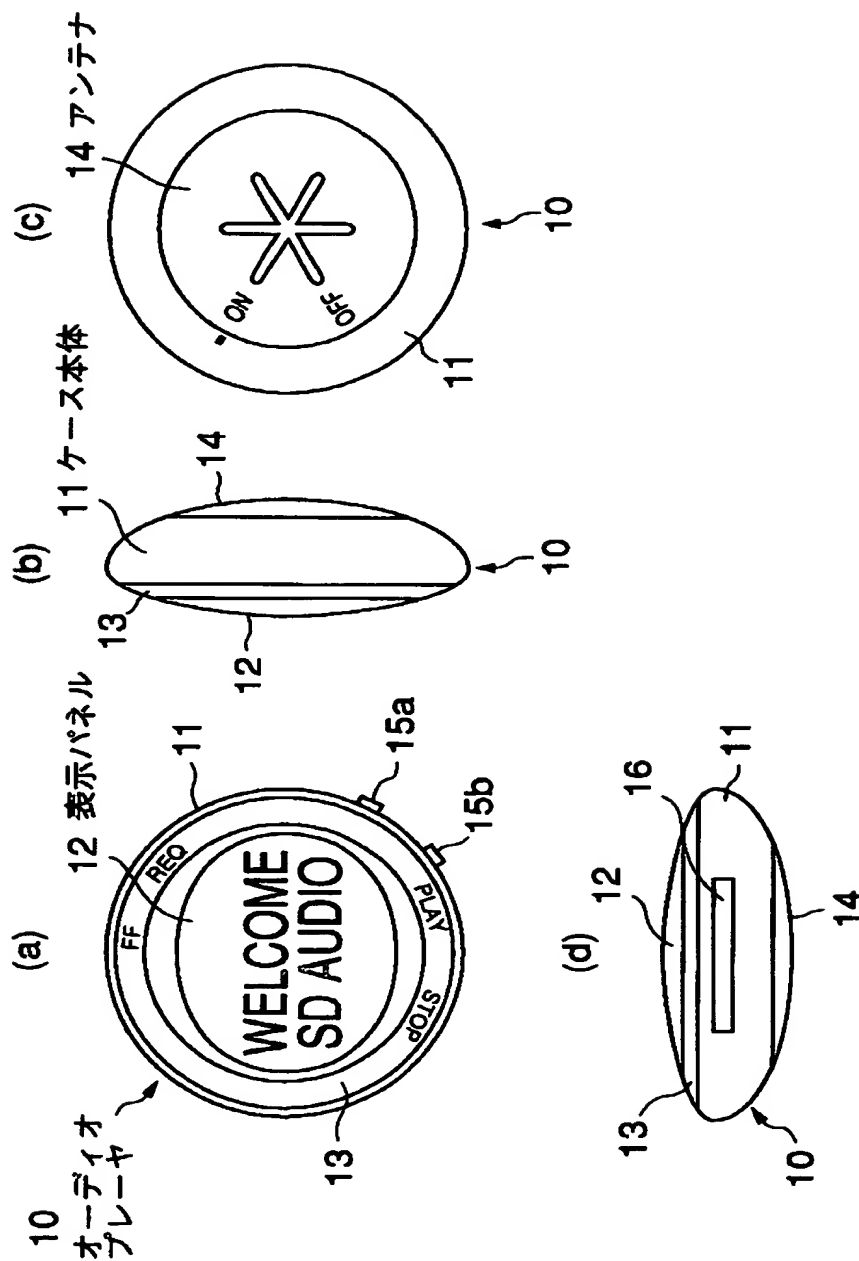
- 1 0   オーディオプレーヤ
- 1 1   オーディオプレーヤのケース本体
- 1 2   表示パネル
- 1 3   オーディオ操作スイッチ
- 1 4   アンテナ
- 1 5 a、1 5 b   音量調整用スイッチ
- 1 6   カードスロット
- 2 0   ヘッドフォン
- 2 0 a   L側ヘッドフォン
- 2 0 b   R側ヘッドフォン
- 2 1   ヘッドフォンのケース本体
- 2 2   ON／OFFスイッチ
- 2 3   アンテナ
- 2 4   スピーカ
- 2 4 a   L側スピーカ
- 2 4 b   R側スピーカ
- 2 5   耳かけ
- 3 1   音楽ファイル
- 3 2   デジタル送信データ生成部
- 3 3   デジタルデータ変調装置
- 3 4   受信装置
- 3 5   再送要求解釈部
- 4 1   受信装置

- 4 2 エラー検出訂正回路
- 4 3 データバッファ
- 4 4 D/A変換アンプ回路
- 4 5 再送要求発生部
- 4 6 デジタルデータ変調装置

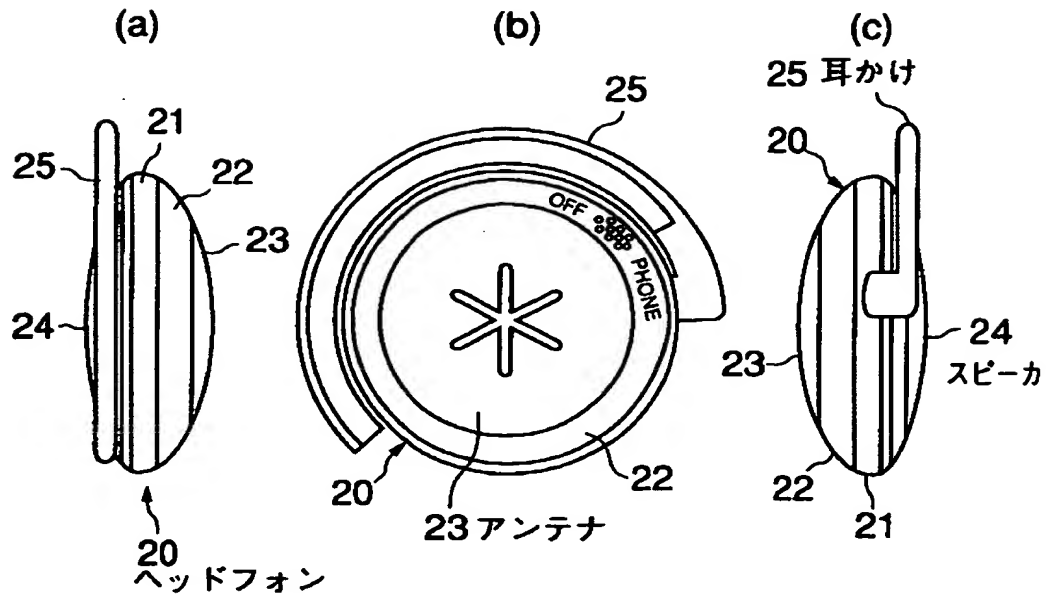
【書類名】

図面

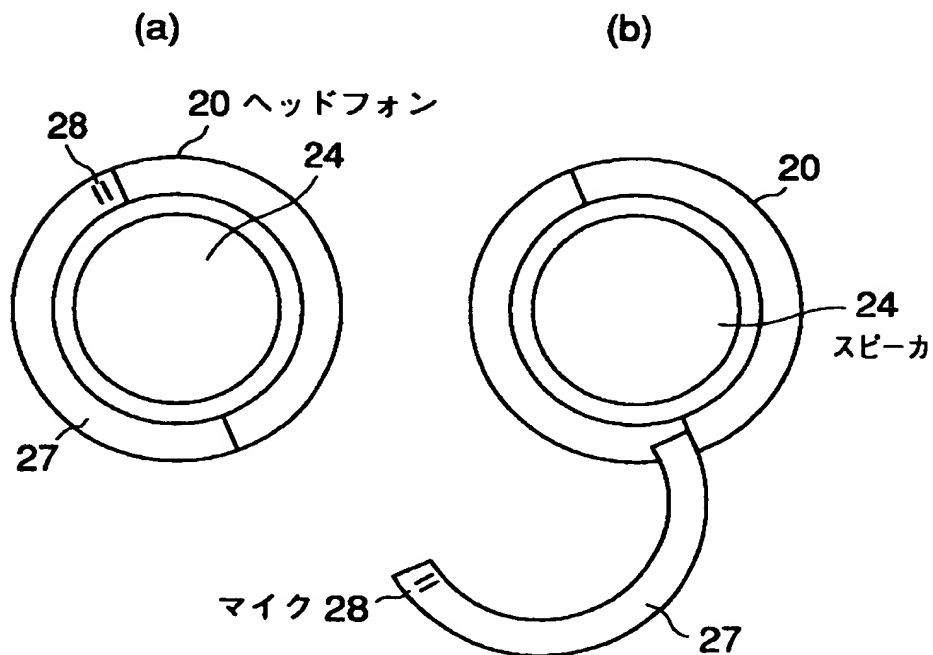
【図 1】



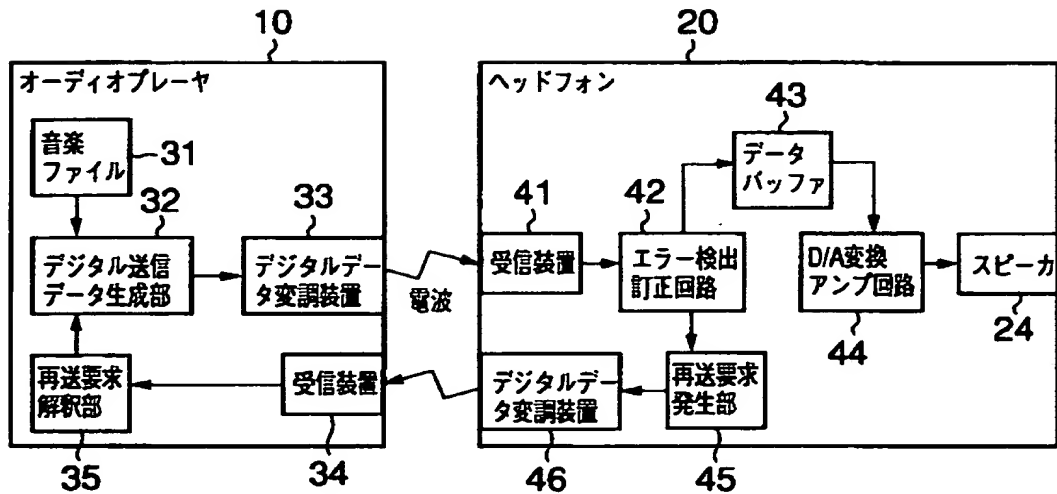
【図 2】



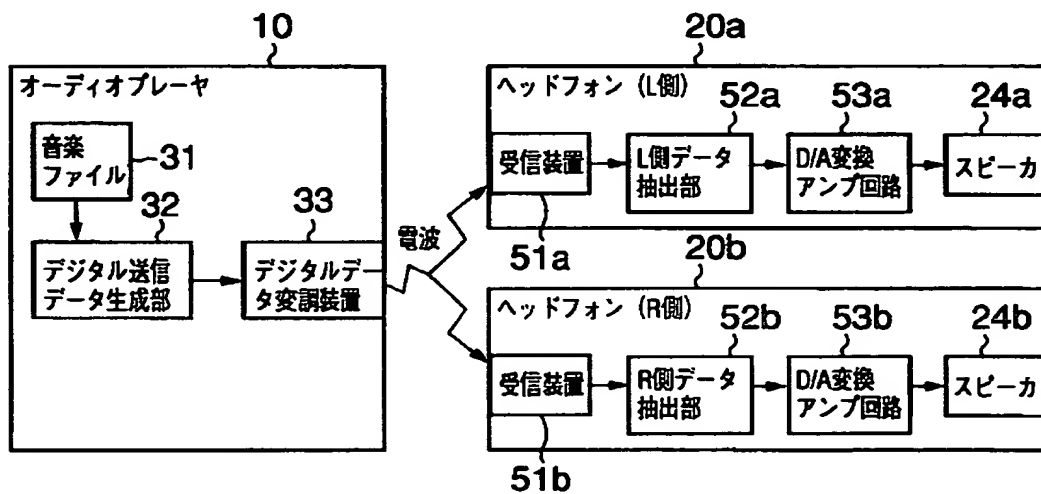
【図 3】



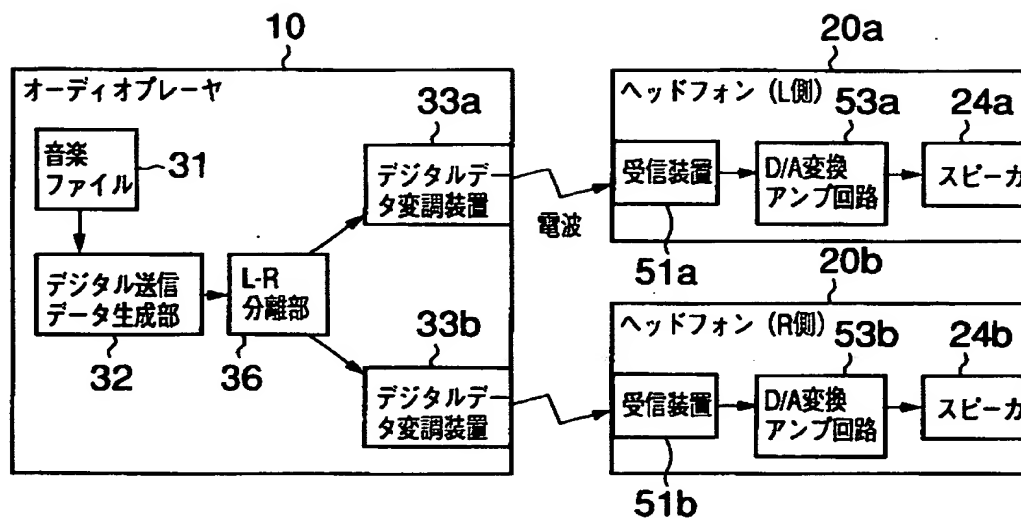
【図 4】



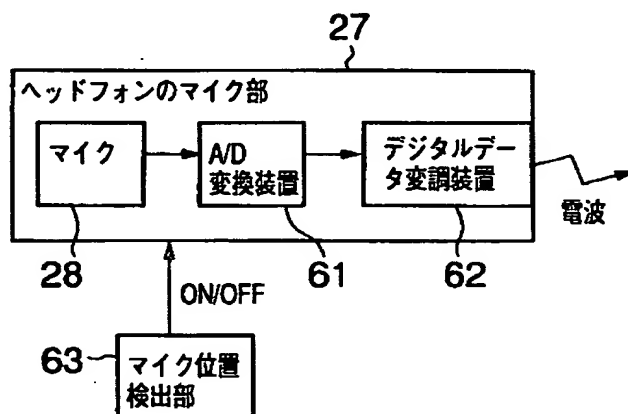
【図 5】



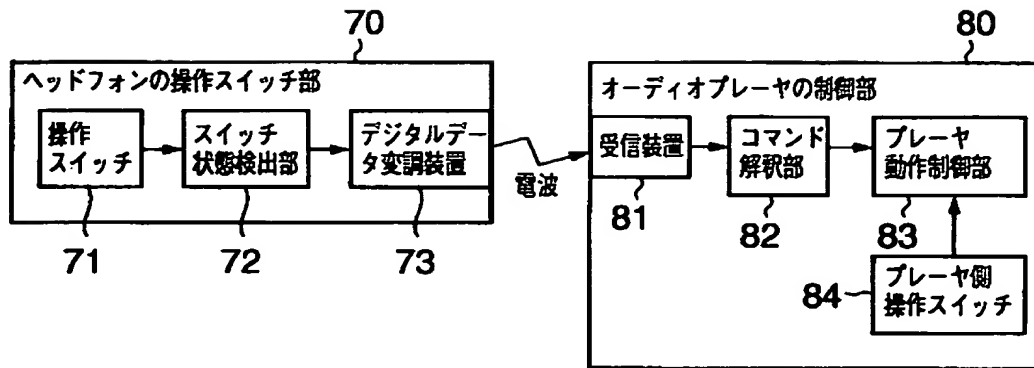
【図 6】



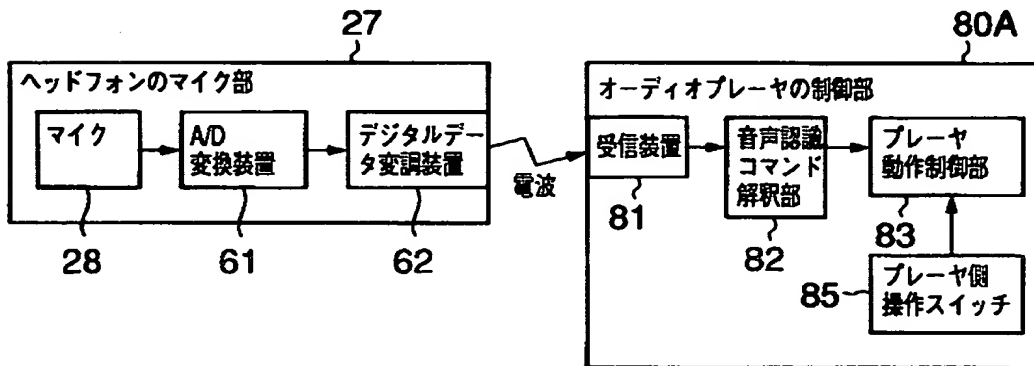
【図 7】



【図 8】

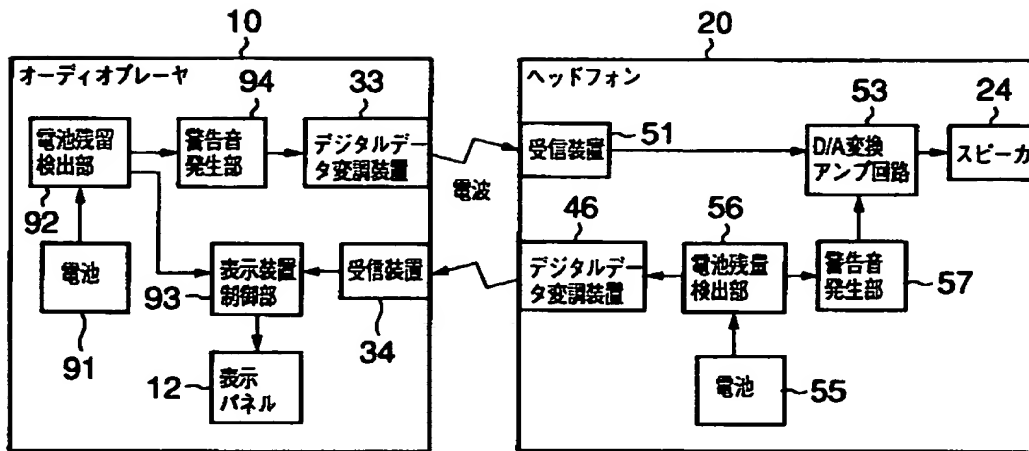


【図 9】

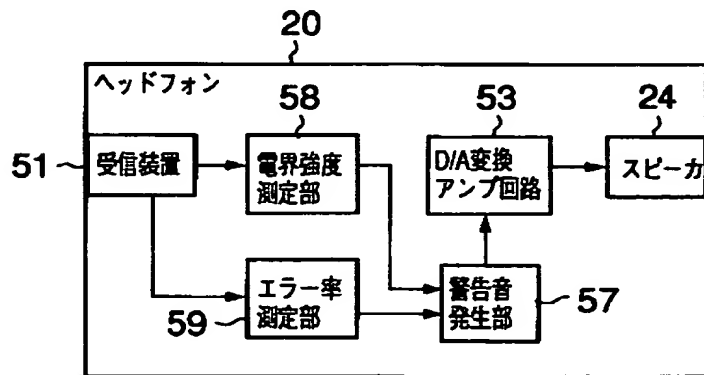




【図 10】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 音質の劣化がないと共に複数のヘッドフォンを用いて複数の人が同じ音楽を聴くことができ、かつ、他の機器への切換え接続を可能とする。

【解決手段】 オーディオプレーヤ 1 0 は、デジタル送信データ生成部 3 2 にてデジタル送信データを生成し、デジタルデータ変調装置 3 3 よりヘッドフォン 2 0 に無線送信する。ヘッドフォン 2 0 は、上記送信データを受信装置 4 1 で受信し、エラー検出訂正回路 4 2 でエラーを訂正してデータバッファ 4 3 に格納し、D/A変換アンプ回路 4 4 により順次読み出してスピーカ 2 4 を駆動する。また、エラーを訂正できない場合やデータの一部を受信できなかった場合には、再送要求発生部 4 5 から再送要求コマンドを発生してオーディオプレーヤ 1 0 へ送信する。オーディオプレーヤ 1 0 は、上記再送要求コマンドを受信し、再送要求解釈部 3 5 で解釈してデジタル送信データ生成部 3 2 にデータの再送信を指示する。

【選択図】 図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000003078]

1. 変更年月日	1990年 8月22日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
氏 名	株式会社東芝